仲間とかかわりながら，
よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業
３年公民分野　～「みんなくるミナクル」の実践を通して～

豊橋市社会科部会

１　はじめに

豊橋市中学校社会科研究部では，「仲間とかかわりながら，よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業」をテーマに研究に取り組んできた。これまでの２年間の成果をふまえ，研究主題を下記のようにとらえ，本実践に取り組んだ。

「仲間とかかわりながら」とは，学びを通してかかわる人たちもすべて含めたものを「仲間」とし，「仲間」と考えを認め合い，高め合う場を重ねることを通して，自分自身の考えを深めていく姿ととらえる。多くの友人や人との協働を通して追究していくことで得られる達成感が，よりよい社会をつくろうとする意識を引き出していくと考える。本実践では，「ミナクル」の建設にかかわった自治会長さんや館長さん，地域のボランティアの方から話を聞くなどの活動を展開した。

「よりよい社会」とは，「誰もが安全・安心に住み続けることができる社会」と捉え，その実現のために「他者の立場を意識しながら問題の解決を図ろうとする生徒」の育成を目ざしていきたいと考えた。本実践では，「ミナクル」の建設について豊橋市の政策として財政健全化や生涯学習の考え方がある一方で，地域住民からは，図書館の建設について長期に渡り陳情があり，大清水校区のシンボルである「しょうぶ園」の移転先についてなどのさまざまな要望があるなど，豊橋市と地域住民の間で合意形成が行われ，今に至っている。「ミナクル」を教材として扱うことで，地域住民の生活は，市が地域に暮らしている人たちの意見を聞き，他者の立場を大切にした合意形成を図ることで成り立っていることを理解するとともに，中学生のうちから施設と関わり意見を出していくことで，若者の意見を取り込んだ，より持続可能な施設となり，よりよい南稜校区を作っていくことにつながっていくことを実感でき，地域の一員として主体的に社会づくりに参画していこうとする態度の礎となると考えた。

「参画をめざす」とは，未来における社会事象の変化に直面しても柔軟に対応できるようにするため，今現在の「行動化」だけを目ざすのではなく，参画への意識や意欲を高めたり，行動化へのきっかけを作ったりする「参画していこうとする」姿も含めて考えることとした。本実践では，政治参加，社会参画の本質である地方自治を「南稜校区の姿」を学びながら追究していくことで，生徒たちは関心を持続させ学習に取り組むことができるだろうと考えた。

２　研究の基本的な考え

（１）研究の仮説

仮説Ⅰ	社会科の学習において，地方自治と地域教材を関連づけた単元を設定し，地方公共団体の立場や政策の内容と，地域住民の思いを中心に課題を追究していけば，地域の一員としての自覚をもち，諸問題を自分ごととして捉え，よりよい社会づくりへの参画をめざそうとする生徒が育つだろう。
仮説Ⅱ	学びを通してかかわる人たちすべて含めたものを「仲間」とし，仲間とかかわる場を意図的に設定すれば，社会的な見方を広げたり，社会事象の理解を深めたりすることができるだろう。

（２）研究の手立て

①　手立て１…仮説Ⅰに対して

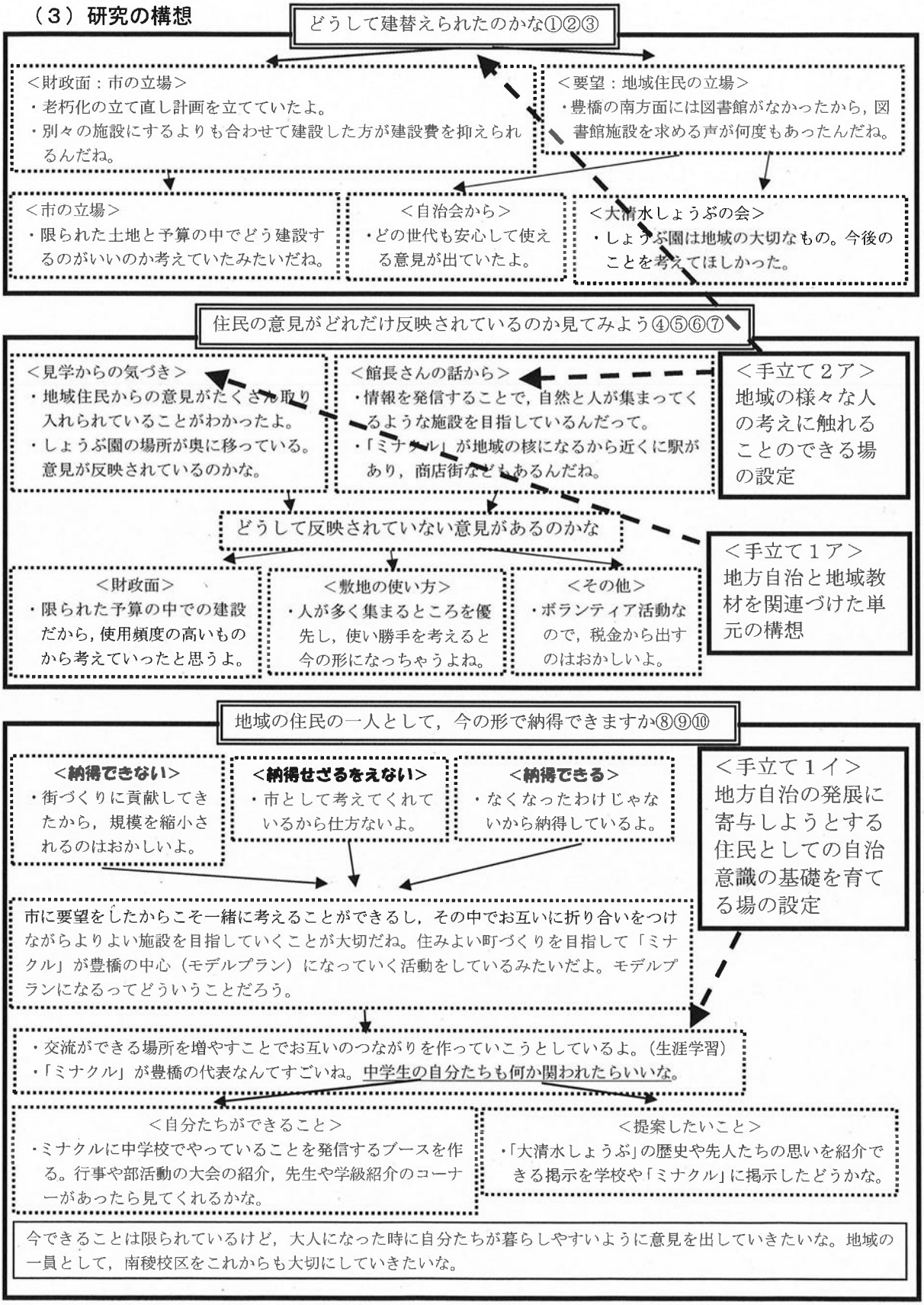
ア　「ミナクル」を教材化することで，地域社会における住民の福祉は住民の自発的努力によって実現すること。また住民参加による住民自治に基づくものであるということを，合意形成や社会参画を視野に入れながら生徒に追究させることができる。

イ　豊橋市が「ミナクル」を中心とした生涯学習のモデルプラン（「ミナクル」での様々な活動を事例として市全体に広げていくこと）を計画していることを知ることで，地域に誇りをもち，自分たちにできる社会参画を考え，地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる。

② 手立て２…仮説Ⅱに対して

ア　様々な立場の人の考えに触れる機会を設定することで，立場によって違う多様な考えや思いに気付かせる場面を設定する。

（３）研究の構想



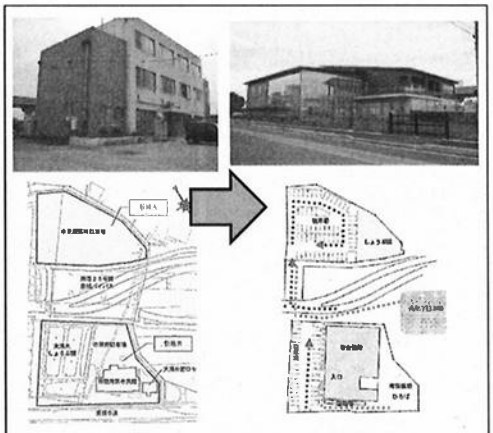
（４）　抽出生徒の捉えと願い

抽出生徒Ａは，社会科の学習に前向きで，与えられた課題については丁寧に取り組むことができる。また，友達の意見を聞いてそれを受け入れようという姿勢も見られる。その反面，自ら疑問をもって解決に向けて考えることや，自分の考えを相手に伝え，他者に働きかけたり，問題の解決を図ろうとしたりすることに苦手意識をもっている。地域住民としての意識という点では，単元前の「地域の行事に参加したいですか」のアンケートで「とても必要だったり，誘われたりしたら行くけど，自主的に行きたいとは思わない」と答えており，地域への関心の希薄さがうかがえる。このような生徒Ａに，地方自治のあり方を学ぶ本実践や地域のために活動するさまざまな立場の人の姿を通して，地域に生きる自分を見つめ，合意形成を図りながら社会に積極的に関わろうとする意識を高めていきたい。

３　授業の実践

（１）どうして建て替えられたのかな【手立て２ア】

単元の導入では，地方自治が自分たちの生活と関わりが深いことに気づかせていくために，「ミナクル」の過去と現在の建物の比較写真と，敷地の使い方が比較できる写真を掲示した。**＜写真１＞**生徒たちから「今は大きな建物だけど，昔は小さかったみたいだね」「存在感があり人がたくさん来そう」などの意見が出た。また，一部の生徒からは「しょうぶ園があったなんて知らなかったよ」といった意見が返ってきた。**【資料１】**生徒Ａからは「どうして建て替えられたのか」という疑問が出てきた。他の生徒からは，「なぜ改装ではなく改築だったのか」「お金はいくらかかったのか」などの意見も出された。生徒Ａの「どうしてしょうぶ園があるのか」「しょうぶ園を今も残す理由を知りたい」といった振り返りからは，しょうぶ園の存在やその目的に疑問を抱いていたことがわかる。**【資料２】**そこで，生徒Ａのこの疑問を全体に広げていき，同じ敷地の中に作られているしょうぶ園の存在を共有した上で，「ミナクル」に対する疑問と地方自治の仕組みを関連づけて学習していくことにした。



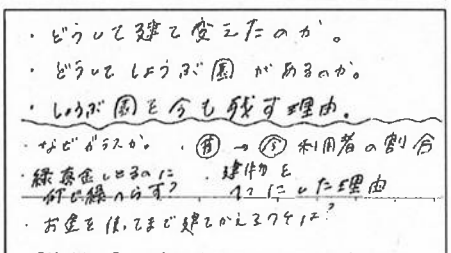
（昔）　（今）

＜写真１＞建物と敷地活用の比較

Ｔ１　：写真を見て思ったことを教えてください。
Ｃ１　：今は大きな建物だけど，昔は小さかったみたいだね。
Ｃ２　：存在感があり人がたくさん来そう。
～中略～
生徒Ａ：どうして建て替えたのか疑問です。
Ｔ２　：他にも疑問に思っていることはなにかあるかな。
Ｃ３　：なぜ改装ではなく改築だったのか。
Ｔ３　：どうしてそう思ったの？
Ｃ４　：わざわざ建て替えるなんて大変だしそれなりの理由がある気がします。
Ｃ５　：少し似ていて，お金もすごくかかっていると思います。
Ｃ６　：お金はいくらかかったんだろう。

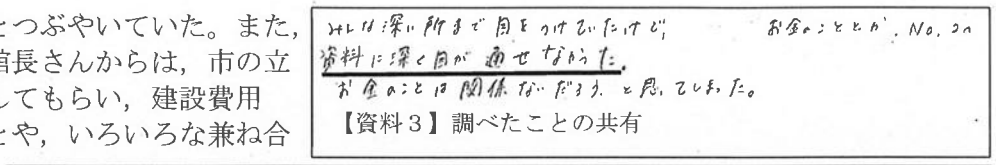
【資料１】第①の授業記録から

「ミナクル」に対する疑問を挙げていく中で，お金に関することと，昔はなかった図書館が新しく併設されていることに疑問をもつ生徒がいた。地方自治の仕組みを考えていく上で，地方財政の仕組みや財政健全化について理解し，住民自治や地域ボランティアの存在を押さえておくことは重要であると考え，豊橋市の立場（財政面）と地域住民の立場（要望）に焦点化できるように，さまざまな立場の人の考えに触れながら，「ミナクル」がどうして建て替えられたのかを調べられるようにした。これまでにでてきた生徒の疑問を解決するために，当時の自治会長だった小嶋さんと大清水しょうぶの会の手塚さんの話をビデオレターにして生徒たちに見せた。生徒Ａは，小嶋さんの「どんな施設を作るのかが住民にとっては大切だったので，地域住民の意見を度も粘り強く市に伝え話題にしました」という話から，地域住民の思いの強さに驚いた様子だった。また，手塚さんの「大清水校区ができてから，大清水しょうぶ（しょうぶ園）は校区のシンボルとして大清水の人たちの町作り・絆作りに貢献してきた」という話を聞き，「今あるしょうぶ園はそんなすごいも

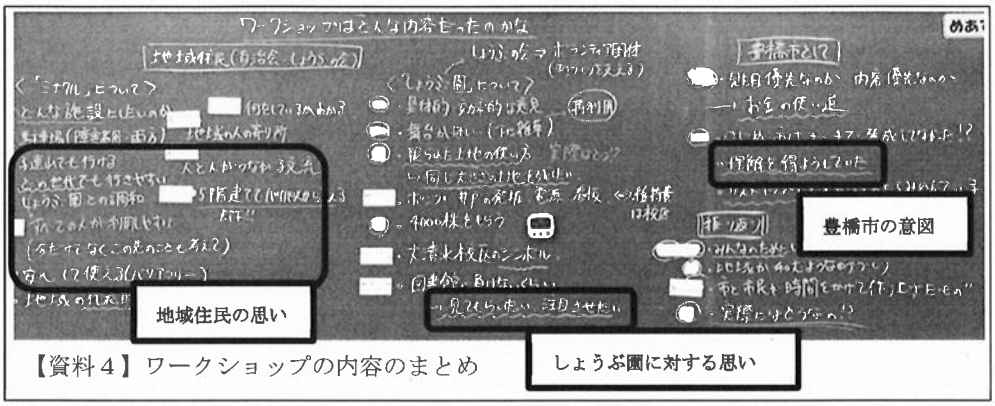


【資料２】写真からわかることは何かな。

のだったんだ」とつぶやいていた。また，「ミナクル」の館長さんからは，市の立場としての話をしてもらい，建設費用（財政面）のことや，いろいろな兼ね合いがあり大変だったことを聞いた。地域の方の話や，お金の使い道を学級で共有することでAは「お金のことまで深く目が通せなかった。お金のことは関係ないだろうと思ってしまった」という思いをもった。**【資料３】**Aが仲間と関わることで，豊橋市の立場（財政面）について気づき，また，立場によって違う多様な考えがあることにも気がつき始めていることがわかる。**【資料４】**そして，今の「ミナクル」について生徒たちから「実際にはどうなっているのだろう」「住民の意見は反映されているのかな」という疑問の声も出てきた。生徒Aは，授業の振り返りの中で「シンボルとしてしょうぶを目立たせるために…市で協力してほしい」としょうぶ園に対しても興味をもつようになった。**【資料５】**振り返りの中に同じような感想を書く生徒が多く，「ミナクルがどうなっているのか確かめたい」というつぶやきが出てきたため，「ミナクル」の現状を確認するために見学に行くことにした。手立て２アを講じたことで，さまざまな立場の人の考えに触れ，主体的に追究しようという意識が高まり，社会的な見方を広げることができた。



【資料３】調べたことの共有

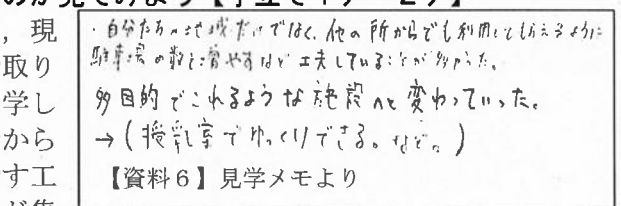


【資料４】ワークショップの内容のまとめ

【資料５】授業の振り返り

「ミナクル」の館長さんに協力していただき，現地を見学しながら，地区市民館としての役割や取り組みについての話を聞いた。生徒Aは実際に見学したことで「自分たちの地域だけでなく，他の所からでも利用してもらえるように駐車場の数を増やす工夫をしている」など，情報を発信する工夫や人が集まってくる工夫を見つけ「ミナクル」の役割を実感し，より身近なものと感じていることがわかる。**【資料６】**しかしその一方で，しょうぶ園にも工夫は見られたが，しょうぶの本数が減り，土地の広さが以前よりも減少しており，住民の意見が反映されていないこともあることに気づいた。Ｃ１が「ミナクルについてはほとんどの意見が反映されていることがわかったけど，しょうぶ園については微妙だった」**【資料７】**と発言したことで，その違いについて何か理由があるのではないかと考えるようになった。生徒Aの「ミナクルとしょうぶ園は関係ないのかな」という疑問に対してＣ３が「しょうぶ園はボランティア団体が運営しているからじゃない？」，Ｃ５が「同じ敷地の中にあって建て替える前からあるものなのに？」と意見を述べた。関わりの中から出てきた，施設に反映されていない住民の意見について，反映されなかった理由を話し合うことにした。見学に行ったことで，「ミナクル」の現状に疑問をもち，よりよい社会へ目を向け始めたことがわかる。

（２）住民の意見がどれだけ反映されているのか見てみよう【手立て１ア　２ア】



【資料６】見学メモより

Ｃ１　：ミナクルについてはほとんどの意見が反映されていることがわかったけど，しょうぶ園については微妙だったよ。
Ｃ２　：場所すら変わっていたもんね。
生徒Ａ：ミナクルとしょうぶ園は関係ないのかな。
Ｃ３　：しょうぶ園はボランティア団体が運営しているからじゃない？
Ｃ４　：ボランティア団体だと違いがあるの？
Ｃ５　：ミナクルと同じ敷地の中にあって，建替える前からあるものなのに？

【資料７】第⑥時の授業記録

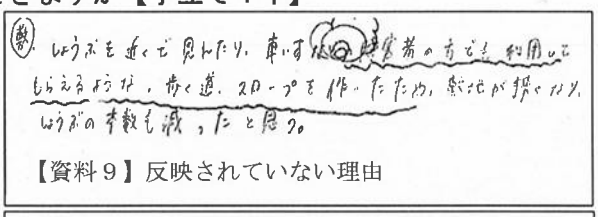
話し合いを進めていくと，Ｃ１は財政面の視点から「出た意見をすべて実現させようとすると予算を超えてしまう」と述べ，予算が限られているという事実に気づいた。Ｃ４は「図書館が新しく加わって複合施設になったから駐車場が前より必要になった」と述べ，豊橋市として限られた敷地の中で計画を進めないといけなかったことに気づいた。**【資料８】**また生徒Ａは，「車イスなどの障害者の方でも利用してもらえるような歩道やスロープを作ったから敷地が狭くなり，しょうぶの数が減ったと思う」と，多様な人の利用と敷地の使い方を関連させながら考えていたことがわかる。

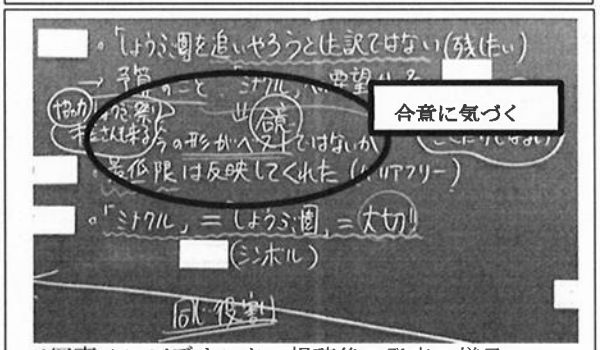
Ｃ１：ワークショップで出た意見をすべて実現させようとすると予算を超えてしまうから無理だよ。
Ｔ１：予算はいくらだったの？
Ｃ２：すべて込みで１２億円でした。
Ｃ３：予算が限られているから，使う人が多い建物の方を優先して作ったのだと思う。
Ｔ２：優先して作るっていう考え方があったのかもね。他にはどう？
Ｃ４：図書館が新しく加わって複合施設になったから駐車場が前より必要になったと思います。
Ｃ５：駐車場を増やすために新たに国交省から土地を借りていると館長さんが言っていたよ。
【資料８】第⑦時の授業記録

【資料９】「ミナクル」建設にあたり，さまざまな事情がある中で，しょうぶ園の様子を知った生徒たちは，地域に住む住民の一人として今の「ミナクル」の姿に対して考えだした。

（３）地域の住民の一人として，今の形に納得できますか【手立て１イ】

第８時では，「ミナクル」の現状を地域の住民の一人として納得できるか話し合うことにした。話し合いの中で「ミナクルに比べしょうぶ園に来る人が少ない」や「ボランティアでの活動と考えると税金を使って作っている以上，今の状態でもありがたい」など，何を優先して作るのかや税金の使い道から考える生徒も出た。そこで，しょうぶの会の手塚さんの今の思いをビデオレターで流した。「大きさや場所に関係なく，今でもミナクルのそばにしょうぶ園があり地域の方に愛されている」という話を聞いたことで，「ミナクル」建設において，地域住民からの要望を限られた予算や敷地の中で実現するために，市と住民が折り合いをつけて合意形成をしていったことに気がつくことができた。**＜写真４＞**


【資料９】反映されていない理由

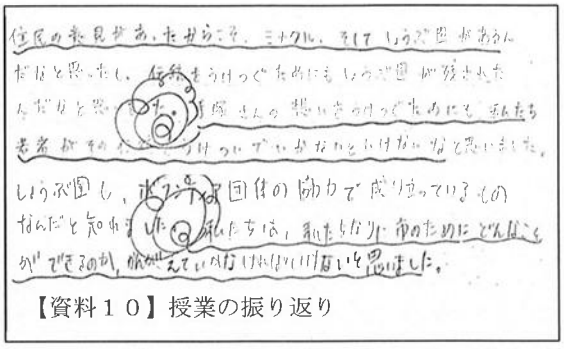


＜写真４＞ビデオレター視聴後の発表の様子

話し合いの後，「ミナクル」の館長さんより話し合いを聞いての感想を述べてもらった。館長さんからは「しょうぶ園とミナクルの価値（役割）に気がついてくれたことがうれしい。未来を担っていく若者に知ってもらえてよかった。」という話を聞いた。生徒の振り返りには「住民が市に要望をしたからこそ色々なことを市と一緒に考えることができる。その中で折り合いをつけながらよりよい施設を目ざしていくことが大切なんだ」と書いてあった。生徒は物事を決めていくためには話し合いながら，折り合いをつけていくことが大切であることに気づき，また地域への関わり方を見つめ直していった。さらに，鷺坂さんの話の中で「ミナクルが豊橋のモデルとなるように，これからミナクルの取り組みを市内に広げていく」という計画を知った生徒たちは，「ミナクル」の重要性や価値を再確認し，自分たちの地域への誇りを感じたようだった。

第９時の話し合いでは，多くの生徒から「ミナクルをもっと知ってもらうことが大事」という意見が出された。また生徒Ａは「若者である自分たちにできることがあるのではないか」という意見を述べた。そこで，『自分たちができること』と『提案したいこと』という二つの項目について考えていくことになった。『自分たちができること』について「ミナクルでの活動やしょうぶ祭にどんどん参加すること」「しょうぶ園の歴史や先人たちの思いを紹介したり，ミナクルの活動がわかる情報を掲示したりできるような掲示板を学校に作る」などの意見が出た。また，『提案したいこと』については，「ミナクルに中学校や小学校でやっていること（行事・部活の様子・学校紹介など）の情報を発信するコーナーを設置する」という意見が多く出た。『提案したいこと』を「ミナクル」の館長の鷺坂さんへ書面で提出したところ，鷺坂さんからの返事には，「中学生も地域に関わろうとしてくれてとても嬉しい。地域の方も情報が見られると楽しいし，そういうところか

ら関わりが生まれてくる。前向きに検討していきたい。」と書かれていた。生徒たちは前向きな返事をいただいたことで，地域の一員としての喜びを感じこれまでの学習の成果を実感したようだった。また，地域住民が積極的に声をあげていくことがよりよいまちづくりにつながっていくことを実感し，主体的に活動することの大切さを学んだことが生徒Ａの振り返りから読み取れる。**【資料１０】**「ミナクル」の建設という地域のできごとから，豊橋市が地域に暮らしている人たちの意見を聞き，他者の立場を大切にした合意形成を図ることで地域住民の生活がよりよいものになっていくことを理解することができた。さらに，地域の現状をとらえ，自分たちに何ができるかを話し合うことで，生徒一人ひとりが地域社会に主体的に参画していこうとする態度を育むことができたと考える。


住民の意見があったからこそ，ミナクル，そしてしょうぶ園があるんだなと思った。

【資料１０】授業の振り返り

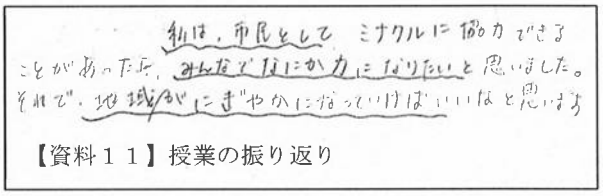
５　研究のまとめ

【手立て１ア】

地方自治の仕組みと地域教材を単元全体に位置づけて学習を展開していったことにより，住民参加の重要性を知り，地方自治はさまざまな立場の合意形成で成り立っていること知ることができた。生徒Ａの振り返りで「住民の意見があったからこそ，ミナクル，しょうぶ園があるんだなと思った」**【資料１０】**とあるように，単元全体を通して地域教材と地方自治とを関連づけたことで，生徒Ａの思考は，校区のことを考えていくことが地方自治につながっていくと実感できたと考える。よって講じた手立ては有効であった。

【手立て１イ】

豊橋市が「ミナクル」を中心とした生涯学習のモデルプランを計画していることを知り，見学や調べ学習を通して自分事として問題をとらえられるように変容している。**【資料１１】**このことから，地域に誇りをもち自分たちにできる社会参画を考え，住民の一人としてよりよい校区を作ろうとする姿勢を育てることができたと考える。


私は，市民として　ミナクルに協力できることがあったら，みんなでなにか力になりたいと思いました。それで，地域がにぎやかになっていけばいいなと思います

【資料１１】授業の振り返り

【手立て２ア】

ゲストティーチャーとの対話を通して，多くの生徒がミナクルの役割が地域にとってかけがいのないものになっており，地域だけでなく豊橋市全体に影響を与えていることをとらえた。生徒Ａの授業後の感想【資料１０】からわかるように，地域への関心が高まっていることがわかる。

６　今後の課題

本研究では，「社会参画」を行動化の側面のみでとらえるのではなく，「社会と自分とのかかわり」また，「他者の立場を大切にした合意形成を図ることで成り立っている」という視点を大切にしながら，生徒たち若者が地域のために，現在だけでなく未来を見据えて社会参画への意識が高めていくことを目ざし実践に取り組んできた。「地域に誇りをもち，自分たちにできる社会参画を考え，住民の一人としてよりよい校区を作ろうとする姿勢を育てること」，「校区のことを考えていくことが地方自治につながっていくこと」を学びとった生徒の姿に，地域の一員としての意識の高まりを感じ取ることができた。こうした意識の変容が，将来の行動化に結びついていくことを切に願っている。

また，「参画したい」という思いを高めるための工夫には，まだ余地があると感じた。地域の人や関係各所からの聞き取りにより，「ミナクル」建設について考えてきたが，「ミナクル」が豊橋市の南地域の中心として機能していく計画まで深く調べることができていたら生徒の考えにさらなる多様性をもたらすことができ，社会参画への充実感をもたせることができたであろう。これらのことを今後の課題とし，地域教材の開発や研究をさらに深めていきたい。